

しおかぜラジオ

先日、車販売店から車検の案内が届いた。ふと 36 年前に給料を貯めて初めて買った車の事を思い出した。中古の三菱の 4WD のワンボックスを 70 万程で買った。車中泊のキャンプ用品が常に積んであり、京都市内の職場から、土曜夕方 5 時に仕事が終わり丹後半島へ向け毎週のように通った。お気に入りの少し高台の海辺には夜 10 時ごろ到着。日本海に映るイカ釣り漁船の漁火と波の音でウイスキー「角」を呑んだ。それは、横田めぐみさんが新潟で拉致されて 7 年後の頃…。



6 月 5 日、横田めぐみさんの父、故滋さんの一周忌を迎えた。一年前、葬儀後の記者会見では、めぐみさんの弟の拓也さん、哲也さんが、滋さんの無念を代弁している。憤りのない訴えが思い出される。「何もしていない人（一部の政治家・メディア）が今の政権批判をするのは卑怯だ！」と、滋さんが多分ずっと我慢していたであろうことを訴えたがメディア批判の部分は殆ど報道されなかった。



滋さんが北朝鮮民主主義人民共和国 (NK 国) による拉致被害者の広告塔的存在になったきっかけは、同じ新潟県の海岸で起きた事件だ。兄弟 3 人が乗った漁船が出港後間もなく何者かに襲われた。もちろん後日判明した事だが、NK 国の工作員が不法上陸しようとしている場面を目撃してしまったようだ。長男はその場で射殺され、二人の弟はそのまま NK 国へ連行された。その後、奇跡的に兄弟二人の手紙が NK

国から母親に届き失踪の全容が判明した。母は何とか息子たちを助け出したいと思案したが国交のない NK 国。ある人の助言で、当時 NK 国と唯一パイプがある日本社会党の存在を知り、居ても立っても居られず早々上京した。その党本部の玄関で大物議員を待つことにした。するとよくテレビで目にする女性議員が玄関に現れ、その手紙を差し出し息子さんたちの救出を懇願した。女性議員は無言でそれを受け取り建物に消えた。しかし、その約一か月後に NK 国にいる息子さん二人は不慮のガス爆発事故で死亡した事が母親に伝えられた。更にその後何年もの間、日本社会党・日本共産党・大手新聞社はじめ NHK、他多くのメディア、一部の自民党議員までもが NK 国による拉致は存在しないと主張した。滋さんは愛娘の名前と顔写真を公開して初めて公の場に立った。それは NK 国によってめぐみさんが同じように抹殺されるという大きなリスクを背負っての事だ。

読者の方々は『しおかぜラジオ』の存在をご存じだろうか。NK 国にいる拉致被害者向けに放送されているラジオで、現在の日本の情報や励みになる音楽、家族や友達のメッセージなどを放送している。時には日本へ脱出する注意点などもアドバイスしている。当然ながら NK 国から妨害電波が発せられ、それに対し毎日何種類かの周波数を変えてねばり強く放送されている。短波放送なので一般ラジオでは受信困難。YouTube で過去の放送を聞いていただきたいと思う。妨害電波に打ち勝って届けられた『♪ふるさと』が、一人でも多くの被害者の方に届くよう祈るばかりだ。

俊徳丸